

発達障害児への運動支援

転びやすいA君とB君の背景は？

【A君】

状況：鬼ごっこやバスケットボールで人にぶつかって転びやすい

感覚機能：眼球運動（サッケード）が苦手

⇒視覚情報が入りにくい

揺れていることや体が傾いていることに気づきにくい

⇒前庭感覚が入りにくい

周囲の状況を素早く把握できない

+ 動しながら姿勢を整えられない=ぶつかって転ぶ

【B君】

状況：階段や坂道でつまづいて転びやすい

感覚機能：眼球運動（輻輳）が苦手⇒視覚情報が入りにくい

段差や坂道の凹凸・奥行きを把握できない=つまづいて転ぶ

学校でみられる運動の不器用さ

《手指の運動》



雑巾で拭き掃除ができない
筆圧が低い
筆圧が高い



使う手がばらばら
利き手ではないほうを
よく出す



肘をついてご飯を食べる
すぐ腕を下ろす

学習の基礎と身体活動体験

- 自発性・意欲の問題：知的機能や発達の違い



相互作用

- 保護的環境・運動活動量の質的・量的低下
(新しいところ・特定の場所を怖がるなど)
- 単に発達上の課題があるから・・・ではない

概念形成と学習の基礎力

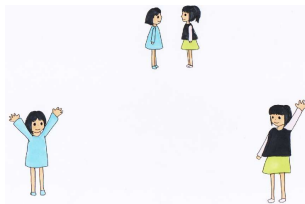
- 重さ
- 長さ
- 高さ
- 大きさ
- 距離
- スピード

概念形成と学習の基礎力

- 重いつて？
- 長いつて？
- 高いつて？
- 大きいつて？
- 遠いつて？
- 早いつて？



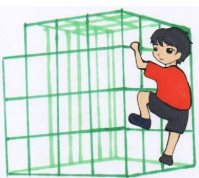
重さを感じる体験



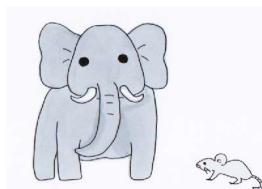
近い・遠い
距離を感じる体験



高さを感じる体験



早く走る・ゆっくり走る
スピードを感じる体験



多様な身体活動の実体験と学び

- 重さを感じる体験と「重さ：ということばとのマッチング」
- 高さを感じる体験と「高さ」
- 長さを感じる体験と「長さ」
- 距離：遠くへ行く・近ところに投げるなどの体験と「距離」
- スピード：早く動く・ゆっくり動くと言う体験と「早さ」「遅さ」

身体への気づき

教科学習へ向けての準備性(レディネス)

図形や文字を読む・書く

線上・縁石歩きやケンパ遊びなどの活動

- ・環境の中の「図と地」への気づき
- ・「図」や「線」を読み取る
- ・なぞり書きをする



発達支援

- ・運動環境：安全への配慮、動きたくなる
- ・適切な運動体験：発達段階に応じた活動
→がんばるだけではだめ
- ・意欲的に取り組める運動：おもしろいと感じられる工夫
- ・運動の質と量の拡大

発達における身体活動の重要性の認識

自発的な活動に 結びつけるには・・

- ・個人の嗜好ー多様な体験
- ・発達段階の把握ー子どもの課題にあった種目
- ・動きたくなる環境作りー本人の関与
- ・想像力をかき立てる・ストーリー性
- ・自然の利用やいつもと違う空間
- ・十分な活動量：満足感を感じる：幸せ感
- ・協同的・個人技のバランス
- ・将来にわたる見通し（成長後も自分で取り組める）

※安全面への配慮を充分行う必要
